



将来見通し等に関する注意事項

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。

かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

当社が事業環境の説明を行う上で、参考となると考える情報を掲載しております。掲載データについては、調査方法や調査時期により結果が異なる可能性があります。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。



もくじ

2019年9月期 第2四半期 決算の概要	.3p
2019年9月期 業績見通し	.15p
当社の事業戦略	.18p
ESGへの取組み	.23p

2019年9月期 第2四半期 決算の概要

1. 売上高、営業利益、経常利益とも当初想定した水準を確保して推移

2. 売上高は前年同期比13%増

四半期ベースの売上高は2四半期連続の過去最高更新

- 売上高 9,284百万円（前年同期比 +1,070百万円 +13.0%）
 - 拡大戦略に沿った運営施設数の順調な増加(2018年9月期の新園開設18施設・事業譲受6施設)を主因に在籍園児数が拡大したことが主な増加要因

3. 営業利益は前年29%減も、今期業績見込みは順調推移

- 営業利益 247百万円（前年同期比 △101百万円 △29.0%）
 - 売上高増加に伴い売上高総利益が増加したものの、次年度開園を見据えた現場人員の積極採用に伴う採用費、社宅費の増加等により販管費が膨らみ営業減益
- 経常利益 234百万円（前年同期比 △85百万円 △26.7%）

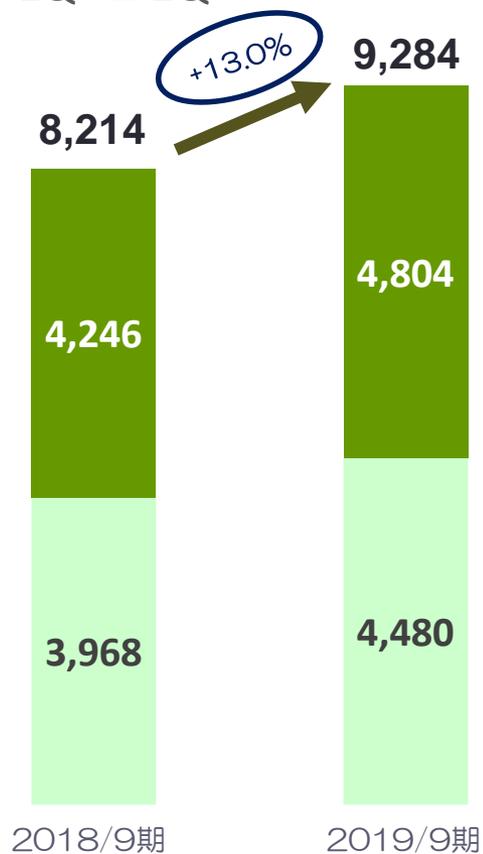
4. 4月に23施設を新規開園

5. 保育の無償化を見据え、継続的に待機児童解消に貢献すべく
拡大戦略をとりつつ、保育の質向上への取り組みも

2019年9月期 第2四半期業績概要

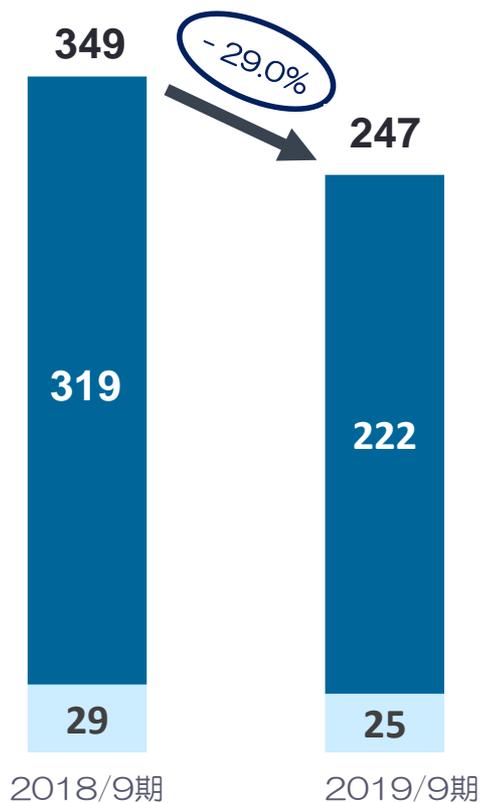
売上高

■ 1Q ■ 2Q



営業利益

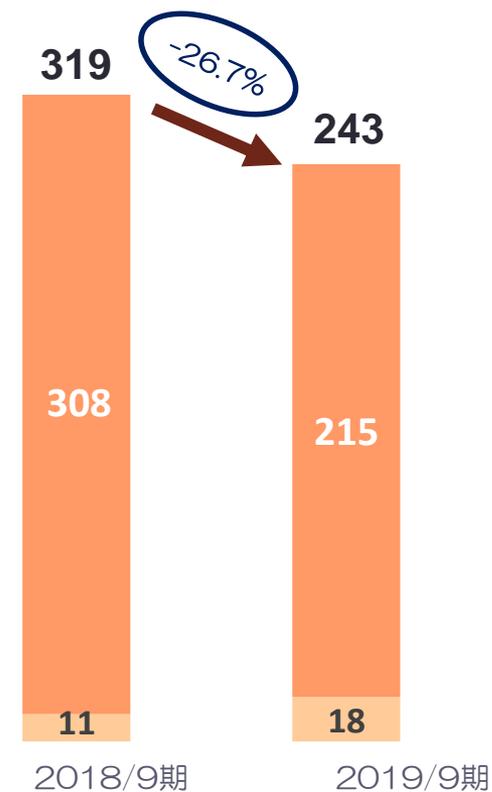
■ 1Q ■ 2Q



経常利益

単位：百万円

■ 1Q ■ 2Q



2019年9月期 第2四半期業績

	2018.9期 2Q		2019.9期 2Q		
	(百万円)	構成比	(百万円)	構成比	前年比
売上高	8,214	100.0%	9,284	100.0%	13.0%
売上原価	6,926	84.3%	7,860	84.7%	13.5%
売上総利益	1,288	15.7%	1,424	15.3%	10.6%
販売費及び 一般管理費	939	11.4%	1,176	12.7%	25.3%
営業利益	349	4.3%	247	2.7%	△29.0%
営業外収益	4	—	5	—	8.0%
営業外費用	34	—	19	—	△44.9%
経常利益	319	3.9%	234	2.5%	△26.7%
税引前 当期純利益	319	3.9%	234	2.5%	△26.7%
法人税等	152	—	92	—	△39.3%
当期純利益	167	2.0%	141	1.5%	△15.3%

[売上高]

- ◆園児数増加・公定価格改定等により11億円増加
- ◆前期に一過性の売上計上した反動によるマイナス要因があるものの、処遇改善で0.5億円、施設家賃補助・社宅補助で0.9億円増加

[売上原価]

- ◆採用費（紹介料等）増加等により売上原価率は0.4ポイント悪化

[販管費]

- ◆採用費（広告費等）、租税公課の増加等により2.4億円増加

[営業利益]

- ◆販管費の増加により減益

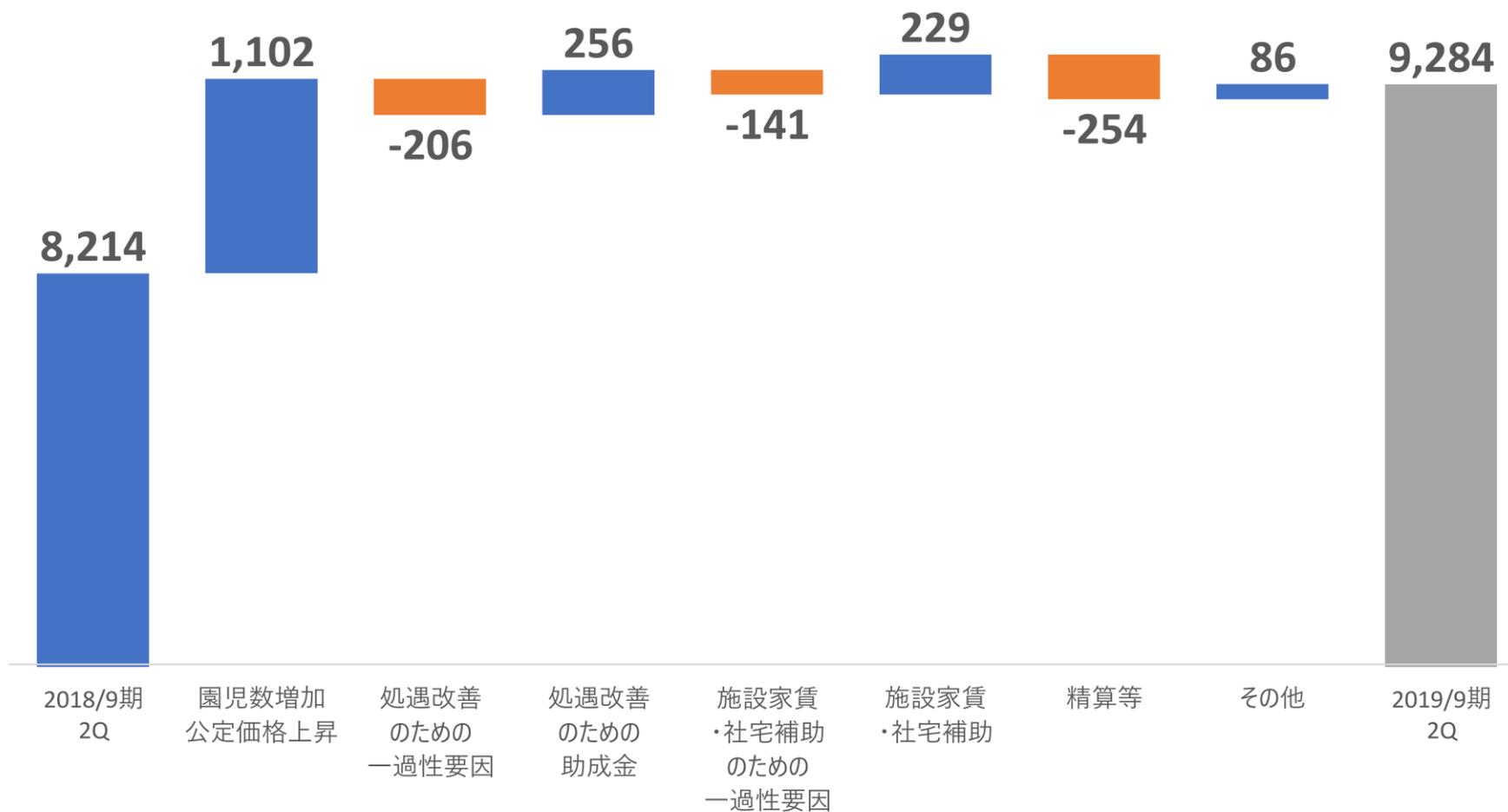
[経常利益]

- ◆営業利益減少に伴い減少

2019年9月期 第2四半期 売上高前期比増減要因

売上高

✓ 園児数増加等により13.0%増

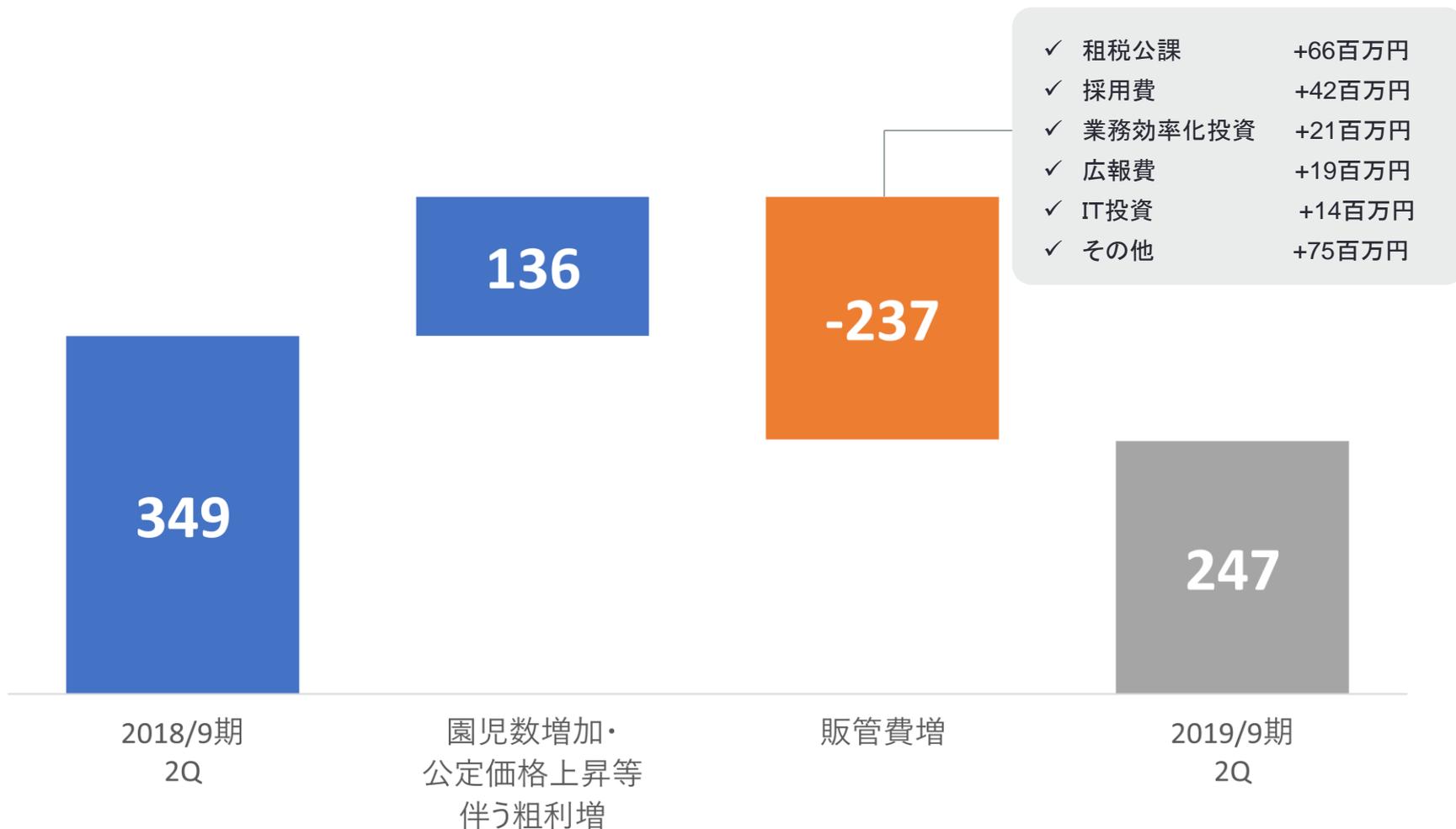


単位：百万円

2019年9月期 第2四半期 営業利益前期比増減要因

営業利益

✓ 採用費・社宅費増加により29.0%減



単位：百万円

2019年9月期 第2四半期 経常利益前期比増減要因

経常利益

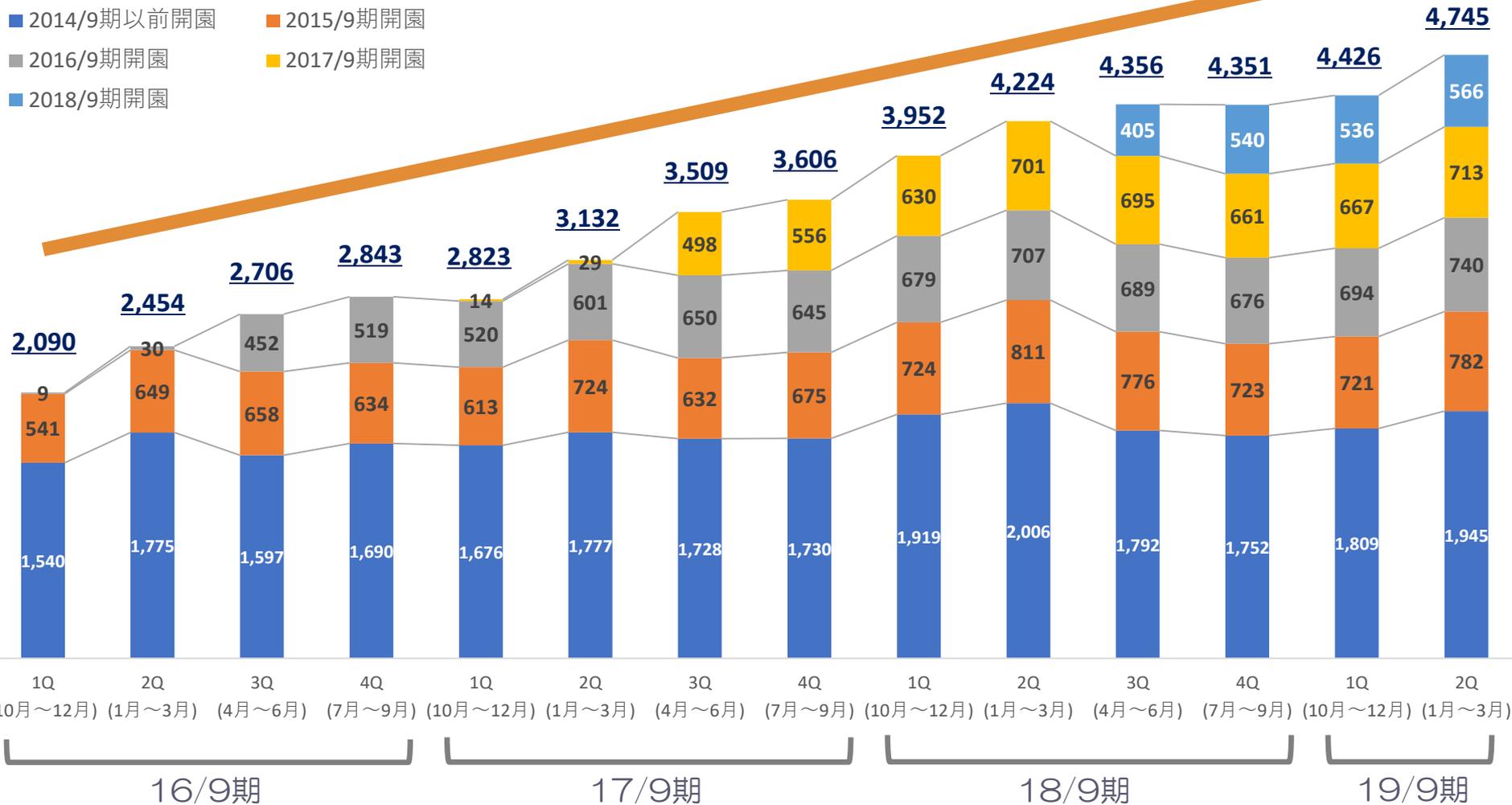
✓ 営業利益減少に伴い26.7%減



単位：百万円

開設期別 四半期毎売上高の推移（保育事業）

■ 過去最高を2四半期連続で更新



注：集計対象は保育事業、コンサル・給食受託事業は除く

単位：百万円

貸借対照表

(単位:百万円)

	2018.9末	2019.3末	
			増減額
流動資産	3,264	6,304	3,040
現預金	1,301	3,901	2,600
固定資産	12,427	14,668	2,241
有形固定資産	9,711	11,808	2,096
資産計	15,691	20,972	5,281
流動負債	3,095	7,475	4,379
固定負債	6,017	6,754	736
負債計	9,113	14,230	5,116
純資産	6,577	6,742	164
負債・純資産計	15,691	20,972	5,281
有利子負債	5,133	10,180	5,046
自己資本比率	41.8%	32.1%	—

[流動資産]

◆ 新園開設に備え、現預金が26億円増加

[固定資産]

◆ 新園投資に伴い、固定資産が22億円増加

[負債]

◆ 短期借入れにより、流動負債が増加

[有利子負債]

◆ 新園開設に向けた借入れにより増加

[自己資本比率]

◆ 第2四半期は、新園投資のための借入金が増加するため自己資本比率は低下

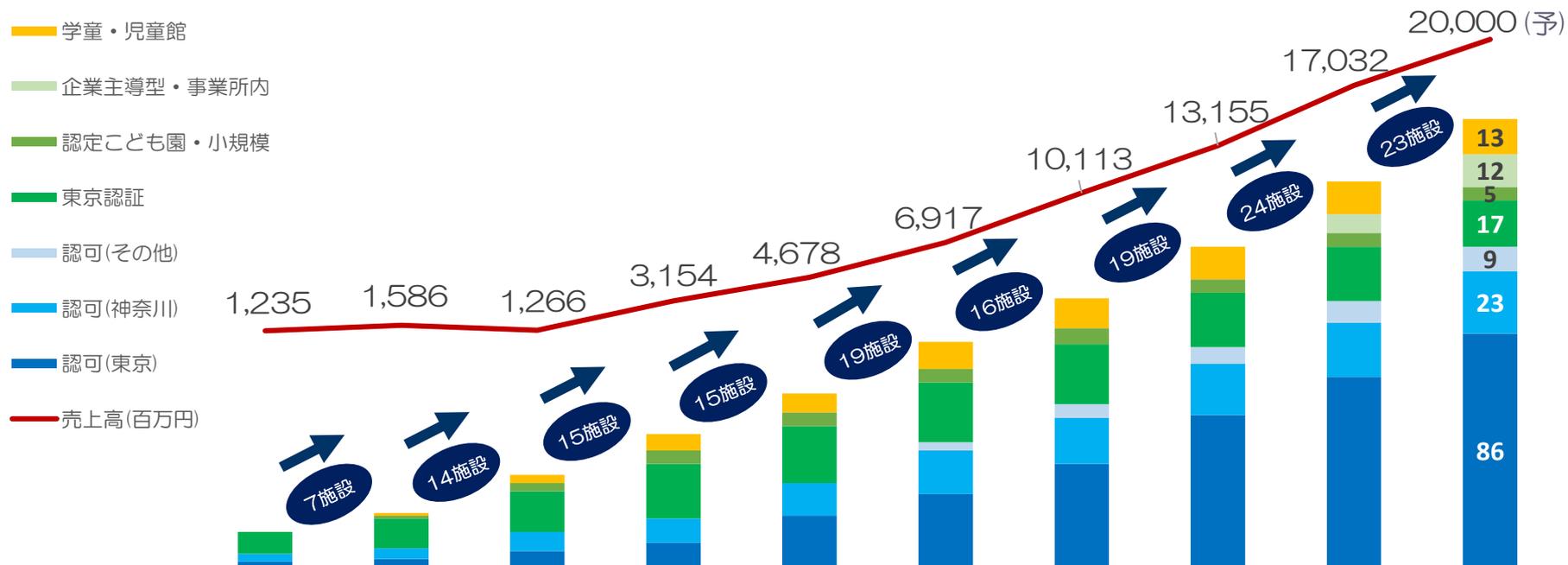
キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2018年9月期 2Q	2019年9月期 2Q
営業活動によるキャッシュフロー	35	66
税金等調整前四半期純利益	319	234
減価償却費	284	326
未収入金の増減額(△は増加)	△432	△8
前払費用の増減額(△は増加)	△351	△421
前受金の増減額(△は減少)	△150	△89
投資活動によるキャッシュフロー	△1,773	△2,511
有形固定資産の取得による支出	△1,783	△2,414
敷金及び保証金の差入による支出	△70	△81
財務活動によるキャッシュフロー	4,047	5,045
借入金及び社債の純増減(△は減少)	4,024	5,048
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,309	2,600
現金及び現金同等物の期首残高	1,246	1,301
現金及び現金同等物の期末残高	3,555	3,901

運営施設数の推移

■ 2019年4月に23施設開園 運営施設数は合計165施設



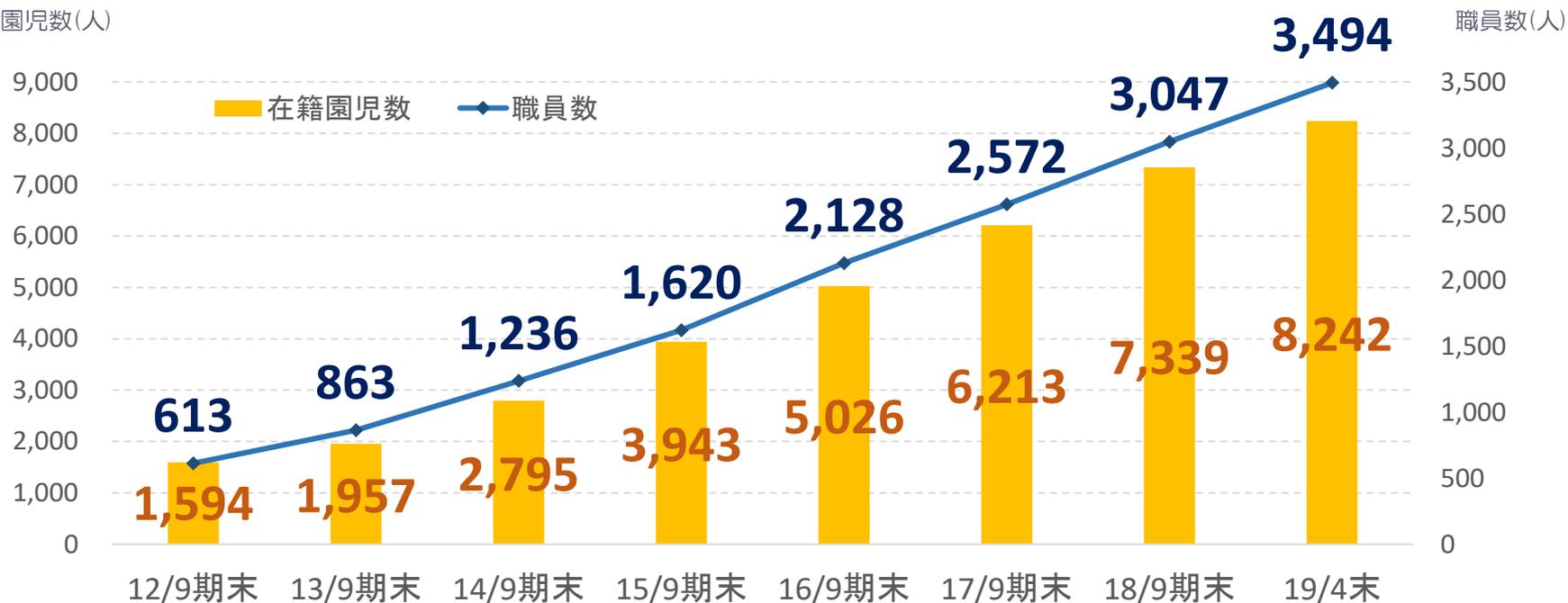
	2011/3期	2012/3期	2012/9期	2013/9期	2014/9期	2015/9期	2016/9期	2017/9期	2018/9期	2019/4
認可(東京都)	2	3	6	9	20	28	38	56	70	86
認可(神奈川県)	3	4	7	9	12	16	17	19	20	23
認可(千葉県)	-	-	-	-	-	2	3	3	3	3
認可(埼玉県)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
認可(大阪市)	-	-	-	-	-	1	2	3	4	5
東京都認証	8	11	15	20	20	21	22	20	20	17
認定こども園等	-	1	3	5	5	5	6	5	5	5
企業主導型	-	-	-	-	-	-	-	-	7	11
事業所内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
学童・児童館	-	1	3	6	7	10	11	12	12	13
合計	13	20	34	49	64	83	99	118	142	165

注：H27年9月期以前の売上高については(株)グローバルキッズ連結数値となります

在籍園児数と職員数の推移

在籍園児数と職員数の推移

在籍園児数(人)



在籍園児数：学童クラブ・児童館に在籍する児童数は含まず
職員数：本部職員・パート職員等を含む

過去最高の採用数

- ◆ 保育士確保のため、2018年5月～2019年4月の採用数は1,100名超と過去最高を達成
- ◆ 退職防止の本格取組み開始

2019年9月期 業績見通し

2019年9月期 進捗状況

■ 当初予想に沿って順調に進捗し、2019年9月期通期見通しは変更なし

	2019年9月期見通し			2019年9月期 2Q		
	(百万円)	構成比	前期比	(百万円)	構成比	進捗率
売上高	20,000	100.0%	+17.4%	9,284	100.0%	46.4%
売上原価	17,230	86.2%	+17.2%	7,860	84.7%	45.6%
売上総利益	2,770	13.9%	+19.0%	1,424	15.3%	51.4%
販売費及び一般管理費	2,430	12.2%	+22.1%	1,176	12.7%	48.4%
営業利益	340	1.7%	+0.6%	247	2.7%	72.9%
営業外収益	2,140	—	+6.2%	5	—	0.2%
営業外費用	550	—	+26.3%	19	—	3.5%
経常利益	1,930	9.7%	+0.7%	234	2.5%	12.1%
税引前当期純利益	1,930	9.7%	+199.9%	234	2.5%	12.1%
法人税等	680	—	—	92	—	—
当期純利益	1,250	6.3%	+123.5%	141	1.5%	11.3%

2019年9月期2Q 進捗状況

[売上高]

◆ 園児数増加等により、売上高は計画に沿って推移

[営業利益]

◆ 進捗率が高いものの、下期にかけて先行投資等の費用が積み上がり、営業利益は想定どおりの着地を想定

[経常利益]

◆ 4月の新園開設により、営業外収益（補助金収入）は第3四半期に計上を見込む

2019年9月期新規施設

所在地	施設名	定員数	施設形態
東京都 千代田区	グローバルキッズ経済産業省保育室	19名	事業所内
港区	グローバルキッズアークヒルズ園	26名	企業主導型
文京区	グローバルキッズ茗荷谷園、大塚四丁目園	63/70名	認可
墨田区	グローバルキッズ八広園	70名	認可
目黒区	グローバルキッズ大岡山園、めばえ保育ルーム都立大学	60/30名	認可/企業主導型
大田区	グローバルキッズ武蔵新田園、西六郷園、上池台園	69/60/60名	認可
中野区	グローバルキッズ沼袋園	70名	認可
世田谷区	めばえ保育ルーム上野毛、下北沢	29/19名	企業主導型
杉並区	グローバルキッズ浜田山園	67名	認可
北区	グローバルキッズ志茂保育園	35名	認可
荒川区	グローバルキッズ町屋保育園	60名	認可
練馬区	グローバルキッズ桜台保育園	63名	認可
江戸川区	グローバルキッズ宇喜田町園	70名	認可
千代田区	グローバルキッズ飯田橋第二学童クラブ	—	学童クラブ
神奈川県 横浜市	グローバルキッズ美しが丘保育園、磯子保育園、上大岡園	63/73/69名	認可
大阪府 大阪市	グローバルキッズ上新庄園	80名	認可

保育所：22施設
学童：1施設

1,225名

当社の事業戦略

引き続き、事業基盤の拡大期間として位置付け、より「強い会社」を目指す

規模の
拡大

×

収益性の
向上

✓ 積極開園の継続

- 2019年4月に新規開設23施設、認証から認可への移行3施設

✓ 人材採用の強化

- 積極開園を支える年間1,100名規模の人材採用を実施
- SNS等を活用した戦略的な採用施策を実行し他事業者と差別化

✓ 職員の定着率の向上

- 職員の中長期的な就労を推進する新たな人事制度の導入（2019年4月）
- 働き方改革、全社および施設ごとのコミュニケーション活性化の推進

✓ 保育の質向上への取り組み加速

- 保育ノウハウの統一・質の追求、人財育成機関の創設

✓ 積極的な成長投資の継続

- 新規事業の推進(ベトナム、えんマッチ、発達支援事業等)

✓ 効率的な運営体制を再構築・推進

- 運営基準および新規開設基準の再整備、最適化の推進
- 事務業務の効率化などを実現させるBPR活動やIT活用の推進
- 戦略的なIT投資(施設へのIT活用加速、自治体請求管理システムの開発等)
- 本社の施設支援体制の大幅な見直し、強化

新規事業として児童発達支援事業をスタート

- 潜在ニーズの高い未就学児向け発達支援事業への参入
- 保育園等との強固な連携をベースとした事業展開（大手保育園事業者では初）

インクルージョン社会の実現へ

◆ 事業概要

- 開始日 2019年6月
- ブランド名 「グローバルキッズAct」

◆ 今後の展開

- 保育所/幼稚園と連携し、5年で30施設程度の開設を計画
- 保育所等への訪問事業などの展開も検討
 - ・ 1施設10～15程度の保育所(当社グループ外含む)を訪問事業で支援し、400～500施設のサポートを目指す
 - ・ 障碍児のほか、保育士、保護者に対する支援も実施

児童発達支援利用児童数の推移(1月平均)



◆ 発達支援事業とは

- 2012年に児童福祉法によって定められた、発達障碍を持つ未就学児を対象とした認可制の事業

※療育とは障碍のあるお子様が、社会的に自立できるように取り組む教育・治療のこと

◆ 発達支援事業の現状

- 全国約500万人の未就学児のうち、約33万人の子どもが障碍を持つといわれている
- そのうち、児童発達支援サービスを利用し療育(※)を受け入れている子どもは約10%程度と低水準

保育のシェアリングエコノミーモデルの推進（えんマッチ）

- 業界初となる保育のシェアリングモデル構築を意図
- 日本生命との業務提携により事業基盤の拡大を加速化

◆ “えんマッチ” 強化を目指し日本生命と業務提携（2019年3月）

- ✓ 保育事業者および共同利用企業的大幅かつ全国的な拡大
- ✓ 企業主導型保育所の認知度向上
- ✓ 企業主導型保育所における保育の質担保のための各種取組み

◆ 提携企業数、契約保育園数が拡大中

	提携企業数	提携企業 社員数	共同利用契約 保育園数
2018年 5月	80社	38万人	32園
・			
・			
2019年 4月	142社	60万人	86園

※ “えんマッチ”とは、育休中社員の早期の職場復帰のための保育園利用枠を確保したい企業に、企業主導型保育施設の企業枠を提供する保育版シェアリングエコノミーモデルです

ベトナムでの取組みの進捗

■ 潜在市場規模の大きい東南アジア地域での事業モデルを構築中

◆2019年夏より現地（ハノイ）の私立幼稚園で乳幼児向け保育サービスを開始予定

- ◆ ベトナムの市場環境
都市部を中心に急速に核家族化が進み、女性の社会進出が顕著
- ◆ 私立幼稚園（@ハノイ）との提携で2019年夏からのサービス開始に向け順調に進捗



➤ ベトナム現地法人概要

社名： GLOBAL KIDS VIETNAM CO., LTD.

設立： 2018年7月25日

株主： グローバルキッズCOMPANY、SNB KIDDEN WORLD COMPANY LIMITED

事業内容： 未就学児教育（保育事業・チャイルドケア事業）

ESGへの取組み

ESGへの取組み — 持続的成長を可能とする源泉

企業価値向上に向けてESG活動を推進 ～社会課題解決への取組み～

項目	重要なESG課題	取組みの例
環境 (E)	地球温暖化 自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 照明のLED化推進によりCO₂排出削減に貢献 ◆ 施設設備への国産木材の積極活用を通じ国内林業の活性化・森林保全に貢献 ◆ 内装にはホルムアルデヒドの放散が最も低いフォスター規格建材を使用
社会 (S)	女性社会進出 人財活用 地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 子育てしやすい社会の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年20前後の保育所開設により、女性の社会進出に貢献 ・ 児童発達支援事業をスタート → インクルージョン社会の実現に貢献 ◆ 働きやすい環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 休暇制度の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 消滅有給積立制度・・・介護、病気に伴う休暇 ・ 有給休暇の計画付与 etc. ✓ 従業員向け婚活支援サービスを導入 etc. ◆ 日本生命との提携により、保育のシェアリングエコノミーモデル“えんマッチ”を強化
ガバナンス (G)	コーポレート・ガバナンス 内部統制 企業行動	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 独立社外取締役3名 ◆ 株式報酬制度導入 ◆ リスクマネジメント体制の構築 ◆ コンプライアンス研修(情報セキュリティ、反社、ハラスメント等)の実施

持続的成長へ



ご清聴いただき
ありがとう
ございました！

◆ ホームページ

<http://www.gkids.jp/> 株式会社グローバルキッズCOMPANY公式サイト

<http://www.gkids.co.jp/> 株式会社グローバルキッズ公式サイト

<http://www.gk-recruit.jp/> 株式会社グローバルキッズ採用サイト

<https://www.facebook.com/Gkidsbook/> 公式フェイスブック

<https://www.instagram.com/globalkids/> 公式インスタグラム

https://www.instagram.com/global_kids/ 大好評マンガコンテンツ「グローバルキッズ！」

https://twitter.com/hoikushi_dairy 大好評マンガコンテンツ「グローバルキッズ！」

